会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		第７期相模原市中央区区民会議小委員会（グループ１）		
事務局 （担当課）		中央区役所区政策課　電話０４２－７６９－９８０２（直通）		
開催日時		令和５年８月２２日（水）　１４時００分～１６時００分		
開催場所		市民会館２階　第２小会議室		
出席者	委　員	３人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	２人（区政策課職員）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可･一部不可の場合は、その理由				
会議次第		開　会 １　議題 第７期中央区区民会議重点行動について ・「子育て支援」 ・「子どもの健全な育成環境の充実」 ２　その他 閉　会		
会議結果概要		各団体（こども食堂、無料学習塾）へアンケート等を行い、現状の課題や実態を把握することで、今後新たに立ち上げを行いたいと考える方や既存団体に対する支援の充実に繋げる。		

主な内容は次のとおり。

開　会
事務局から、運営に係る事務説明を行った。
　―傍聴希望者　なし―

１　議題
　事務局よりグループワーク参考資料を配布、説明し、グループワークを行った。
　主な意見等は以下のとおり。

（八木委員）
　具体的な内容が分からないまま進んできた。
　子ども食堂に期待している親は、経済的な支援ではなく、子ども食堂で食事をすることによって、食育につながっている部分に期待しているような感じだった。何を求めているのか実態が見えない。
　運営する側の立ち上げの支援や、仕掛けをする人への支援が必要だとは思うが、そもそも子どもたちがどのような意図で子ども食堂へ行っているのか具体的には分からない。

（酒井委員）
　子ども食堂には子どもが友達と一緒にご飯が食べられるという目的で友達と通っている。
　学習支援の方は通っていない。子どもの居場所と学力向上では違う。居場所ということであれば塾でなくてもいい。
　子ども食堂は、当時は困窮している人向けに開かれていたと思うが、今の時代はその理由で行く人は少ないと思う。
　本当の困窮家庭は、子ども食堂へは行かないと思う。

（八木委員）
　子ども食堂へ通う目的としては、実際は友達とご飯が食べられるとか、過ごせるとかが多いようだ。生活困窮者のためが始まりだが現状は違う。学習塾も実際は困窮でなく子どもの居場所として友達と過ごせるという部分が多いと思われる。こちらが最初にイメージしていた生活困窮と実態は違うのではないか。相模原市としてはどのようにやっていくのか。

（事務局）
　社会福祉協議会の資料では、市内の子ども食堂の目的は経済的支援、孤食対策、食育支援と多くの役割を果たしている。

（酒井委員）
　役割を果たせた実績はあるのか。本当に虐待や困窮という閉ざされた家庭はこういう所に出てこない。
　子ども食堂があったことで救われた家庭があるのか、そういう実績があるのかが知りたい。現場のスタッフへは情報が入ってはいるとは思う。実態を知るところからだと思う。

（八木委員）
　事業の運営側とそこに通っている方の両方からアンケートをとることで、方向性や実態をつかむしかないと思う。
　実態が分かれば立ち上げ支援や、課題に対する支援ができる。実態が分からない中でこの制度でやっている状況でいいのか。しっかり状況をつかんだ中でやるべきではないのか。

（酒井委員）
　どこからが困窮に値するのか。

ひとり親家庭に限らず、共働きだって困窮の場合もある。困窮の定義がよく分からない。

（八木委員）
新聞などに夏休みに入ると給食がなくなるから1日2食になるという記事が載っていた。

（酒井委員）
給食費も値上がりしているので、家計を圧迫している。お腹を満たすためなら、考え方にもよるが菓子パンでも十分だと思う。子ども食堂の100円はありがたいのではないか。

（事務局）
子ども食堂が楽しく食事をする場ということであれば、実際に困窮している子どもたちに対し、どのように支援をしていくのか、運営団体の話を聞いてみるのはどうか。

（事務局）
団体同士の集まりで情報共有をしていると聞いた。今年度からは区別に情報交換会を実施すると聞いている。

（八木委員）
相模原市は市域が広いから地区によっては支援をしていくのが難しい場合もある。
裾野を少しずつでも広げていく必要がある。

（酒井委員）
困窮ではなく、子どもの居場所として今後やっていくほうがしっくりくる。
子どもの居場所として、「本当に必要な子」と限定されてしまうと行けなくなってしまうから「すべての子」にしたらいいと思う。

（小川委員）
対象者を限定してしまうと間口が狭くなってしまう。
間口を狭くすることは本来の目的の達成を難しくしている。あいまいな部分の中で認められるおおらかな繋がりであって欲しい。

（酒井委員）
地域の方と子どもが繋がることが第一歩。家庭だけでなく地域で子どもを見守る。困りごとなんかも相談できるような場所であるといい。

（八木委員）
これから立ち上げようとしている団体の背中を押すのが行政の役割なのではないか。各地区で子どもの居場所作りのセミナーを開催できるようにするなどの支援や、居場所作りの組織を立ち上げさせるようにやっていくべきなのかという感じを抱いた。

（酒井委員）
子育て支援というテーマが、なぜ子どもに学習の場を提供するになるのか。

（八木委員）
子育て支援の1つということではないか。
各地区で色んな取り組みをしているが、メディアで取り上げられがちな子ども食堂や学習塾という取り組みが表立ったというところではないか。

（酒井委員）
現状は、子どもの居場所はできてはいるということか。

（八木委員）
　それを、さらに増やしていけるのかということではないか。

（小川委員）
　基本に立ち返ると、家庭の事情で食べられない、塾に行けないという子どもの不公平感を無くしたいというところからスタートしたと思う。子どもの居場所の数はそれなりにあるが、本当に支援を必要としている方に情報がいき渡らない、手を差し伸べられない。それでいいのか。

（酒井委員）
　数が増えたところで、救われるのかなという疑問はある。

（八木委員）
　一人でも子ども食堂で救われるのであれば良しとする。根本的な解決に繋がらなくても、それで徐々に成果を上げていくのでいいのかなと思う。全員を救うとなると実態調査等が必要になり、行政が経済的支援をするという方法しかなくなってしまう。
　ボランティアを増やすことで少しずつ救われる子どもを増やしていくしかないのかなと思う。民間の力を活用した中で、子どもの居場所や友達を作るなどの幅広い考え方でいかないと難しい。

（酒井委員）
　子どもの居場所をどう提供するのかだと思う。
　その場所が、助けてと言える環境になるといい。

（八木委員）
　行政が行っている子ども支援ではなく、地域主体の子どもの居場所作り（子ども食堂や無料学習塾）をどうしたら拡充していけるのかという議論がスタートだった。最初の時点で子ども食堂＝生活困窮というイメージが先行して話が進んでいった。
　子どもの居場所作りを、行政がどうやって支援し、その支援をアプローチしていけば地域に増えていくのではないか。そういうことなのかと思うのだが。

（事務局）
　区民会議ではもう少し絞った形で提案していいのではないか。

（八木委員）
　個々の団体に踏み込むのは難しいと思う。仕組み作りは各団体ができる。
　前段の立ち上げの段階での支援やスタッフの養成が必要なのかなと思う。

（事務局）
　各団体は確かに難しい、もう少し大きな枠でいいと思う。
　区民会議として団体に要望を出すのか、行政に出すのかを検討する必要がある。

（八木委員）
　行政で子どもの居場所事業を所管している課はあるのか。

（事務局）
　こども・若者未来局である。
　市に対して、市で実態把握が出来ていない部分を既存団体にアンケート調査をし、それを反映できるような仕組み作りをして欲しいという要望でもいいと思う。実際には今年度アンケート調査が出来ていないようなのでそこを後押ししていく。

中央区内の子どもの居場所を運営している団体が現段階で37団体あり、それが妥当なのかも分からないので、検討して欲しいという要望も出来ると思う。

（酒井委員）
学習の場というのは学校とは別なのか。学校の校舎は老朽化が進んでいる、プールも古くて工事ができなくて今年から民間に通うことになったところもある。学習の場の基本は学校であり、その環境を整えるのがこども食堂より前にすることかなと思う。遊び場もどんどんなくなっている、教員も足りない。
どうしたら相模原市で先生になろうと思う人が増えるのか。それを要望すればいいのではないか。

（八木委員）
その要望の難しいところは、その内容は市全体を指すのか、その中で区民会議としてどこを要望するのか。
各区の区民会議で要望ができればいいが、教育委員会がやっていくことであり難しいと思う。

（酒井委員）
難しいことは分かっているので、現場の声として届けられればいい。

（事務局）
子育て支援という大きな枠でやってきたので、委員の意見についてはまた別のテーマで要望するのでいいと思う。

（八木委員）
今回のまとめとしては、実態把握をすることもひとつだし、市が“子どもの居場所”の仕組み作りをPRして、立ち上げようとしている人たちに支援や働きかけをしていくことや、それをどうやって地域のボランティアに伝えていくのかだと思う。

（事務局）
社会福祉協議会では相談窓口をやっていると聞いた。実際に生の声を聴いたり、利用している子どもを見たり、状況を把握できる仕組みづくりをしていく等の流れではどうか。

（小川委員）
スタートに立ち返ると、子育て支援と健全な育成環境という大きな枠でやってきて、その議論を進める中で子ども食堂と学習支援がでてきたが、内容が煮詰まらないままここまで来てしまった。

（八木委員）
実態が分からないまま議論を進めてきてしまった。
子ども食堂に限らず、子どもの居場所という広い意味で何かできればいいのではないか。どうやったら地域で立ち上げができるのか、単に窓口を作るだけでなく地域に出向いて働きかけるような仕組み作りをすることも必要ではないか。
子どもの居場所として子ども食堂でも無料学習塾でも、子どもたちが集えるような居場所を作っていけるようアンケート調査をすることで課題を探って、解決していくしかないのではないか。

以　上

第７期第６回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ１）　委員出欠席名簿

No.	氏　　名	所　属　等	出欠席
1	小 川　　紳 夫	相模原市公民館連絡協議会	出席
2	加賀谷　育子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	欠席
3	酒 井　　志 保	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会	出席
4	清 水　　洋 子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	欠席
5	髙 橋　　采 花	公募委員	欠席
6	八 木　　鉄 雄	星が丘地区まちづくり会議	出席
7	割 柏　　秀 規	光が丘地区まちづくり会議	欠席